えんどぞーん

ロードランナーズOBOG会 会報

新入会員紹介

2025年2月28日(金)第77回大阪府立豊中高校卒業式が挙行されました。2025年3月31日をもちまして、77期生が卒業となり、これに伴い、選手12名、MGR5名がOBOG会の新たな会員となります。

上村杯・小宮杯

77期の卒業式後、3年生を送る会が催され、その会場にて前谷OBOG会長より小宮杯・上村杯の受賞者にトロフィーの贈呈をしていただきました。

小宮杯(最優秀ライン)　　長谷川 輝(写真右)

フィジカル・メンタルの両面に優れ、部員全員が厚い信頼を寄せる。副将としてもラインとしてもチームを支える存在としてまさにラインらしい選手であった。

上村杯(最優秀バックス)　　富 悠貴(写真左)

RBながらオフェンスリーダーとして、アサイメント、プレーの構成を含めオフェンスのコーディネートすべてを引き受け、バックスとしてもパワーのあるランで多くのゲインを獲得した。

大学で活躍中！

大学で活躍中のOBOG紹介。（敬称略）

＊括弧は期生。下線はMGR。顧問が把握している方を列挙いたしました。記載漏れがありました際は何卒ご寛恕ください。

【神戸】福井(74)、宮田(75)、佐々木(74)、山本(75)、黒坂(74)、溝渕(74)

【関西】島村(74)　　【立命館】高山(75)

【大阪】松川(74)、小椋(73)、吹田(75)、藤瀬(76)、喜岡(76)

【大阪公立】宮脇(74)、志茂(76)

現役の今

片桐監督より

新人戦が終わり、春大会へ向けてオフェンス、ディフェンス共にプレーの精度を高める練習に励んでいます。自分達でスカウティングし、自分たちでゲームプランを作り、自分達で試合をコントロールする豊中流を実行するため、一つ一つのプレーの共通理解を図りながら、練習に取り組んでいます。

部員一人一人の向上心は高く、合同練習やOBが訪問した際は、積極的に技術を習得しようという姿勢が見られます。また、体力不足を補うために、走り込みなど意識を高く持って真剣にフットボールと向き合うことができている一方、練習での盛り上がりに欠けているところは課題である。

春大会へ向けて、関西大会出場へ向けて、豊高らしさが存分に発揮できるよう選手、マネージャー、スタッフ共に奮闘中です。ぜひ試合会場に足をお運びください。

顧問より

顧問から見ても、部員同士で部活動中だけでなく学校外でも楽しんでいる様子やアメフトのことに取り組んでいる様子が、目に見えて感じられるようになりました。コロナ禍を経てこういった交流が限定的であったり、少人数・小規模でするのが当たり前だったりした状態から、多くの人が巻き込まれる形で行われやすい雰囲気になったように思います。コロナ感染が五類になってから久しいような気がしますが、若い世代にはその影響は遅れてやってくるのだと実感します。

まだまだ見えない形での影響はあるでしょうが、それに悲嘆することなく、現役部員たちの状況に合わせて、アメフトを一層楽しめるよう、スタッフ全員で支えていきたいと思っております。

今後の予定

春季大会 初戦 4月6日(日)

14:45 kick off　　vs 浪速高校

@MKタクシーフィールドエキスポ

- 春季大会のトーナメント表については既に山本さんのHP掲載済みです。ご参照ください。
- 関西大会は5月31日(土)より、プリンスボウルは6月28日(土)にそれぞれ開催予定です。
  但し、3月15日時点予定。

祝 日本アメリカンフットボール殿堂 に我が部より 3名 が殿堂入り

(高1)徳永義雄さん (高21)東元春夫さん
(高23)柴田尚さん

追悼　昨年5月16日に急逝されました柴田尚さんの思い出を寄稿していただきました。

柴田尚コーチの殿堂入りに寄せて

高55期　川口峰広

高校23期で、2024年5月に急逝された 柴田尚さんが、日本アメリカンフットボールの第6回殿堂入り（2025年1月3日）されました。この殿堂入りは、本校ＯＢとしては３人目（第4回：徳永 義雄 様／第5回：東元 春夫 様に続き）となります。柴田さんは、関西学院大学ファイターズを第28回・第29回甲子園ボウル連勝に導き、ご自身が第1回チャック・ミルズ杯（1974年）を受賞されております。豊中高校のコーチとしては、1986～1988年と2018～2024年と二度の長きにわたり支えてくださいました。

私が2020年4月に赴任した時はちょうどコロナ禍初期で、春季大会中止という異例の事態に、当時3年だった73期が途轍もない喪失感に襲われていたときでした。その当時、外部指導員（部活動専門の非常勤職員）だった柴田さんが73期の状況に非常に心を痛めておられたことを思い出します。赴任したばかりで、チームの状況や部員のことがわからない私に代わり、選手やマネージャーとよくコミュニケーションをとり、Offenseコーチとしてチームが勝利するためにご尽力いただきました。

2024年9月に行われました「思い出の会」でもお話させていただきましたが、改めて柴田さんは「与える」のが上手な方だったのだと思います。学校現場は特有の窮屈さや融通の利かなさもあります。柴田さんにはチームのご指導にあたって不自由な思いもたくさんさせてしまうことになり、申し訳ない場面も多くありました。しかし、新入生の勧誘やプレーの作成、チーム作りも含め、柴田さんのアイデアが随所で活かされていたように思います。柔軟さやアイデアが豊かで、「どうすれば人が動くか」「どうすれば楽しいか」を考えるのに長けておられたのだと思います。

「思い出の会」には、アメリカンフットボール関係のレジェンド級の方々（柴田さんご自身もレジェンドですが）だけでなく、会社の関係者の方々、またロードランナーズＯＢＯＧ会も含め、柴田さんのお人柄に支えられた方が多くいらっしゃったことを思うと、大きな集団を動かす力の中心として、柴田さんのために動かずにはいられない力をお持ちだったのだろうと感じます。これは、柴田さんご自身の行動力の強さ、そして、柴田さんがたくさんのものを与えてくださるが故だったのだろうと私は感じています。

殿堂入りに関しては、柴田さんが代表理事を務めておられた女子アメリカンフットボール協会の篠原様より推薦のお話をいただきました。推薦書のとりまとめや提出はすべて女子アメフト協会の皆様がしてくださったようです。お蔭様で、柴田さんの殿堂入りが果たされ、女子アメリカンフットボール協会の皆様には、感謝の念に堪えません。

顧問として力不足の私を支えてくださっていたことを思うと、悲喜交々ではございますが、柴田さんをはじめ多くの方の思いのこもるロードランナーズを、これからもＯＢＯＧ会の皆様とともに支えていければと思います。

突破する男、柴田尚君よ、永遠に。

高校22期　斉藤和弘

柴田君を一言で表すならば「突破する男」ではないでしょうか。

振り返れば、今から遡ること55年前、私が2年生のとき、当時のタッチフットボール部に柴田君が1年生の新入部員として入部してくれたのが、彼とのファーストコンタクトです。

彼が入部してくれたおかげで私が3年のときには、あの関西学院高等学校に勝利し、近畿春季大会で優勝するという、高校時代、いやこれまでの人生でも最も輝かしい瞬間を味わうことができました。すべては彼の突破力が、無敗軍団の壁を破ってくれたからこその果実でありました。

当時の私のポジションはガード、柴田君はフルバック。ブラスト、オフタックルでは目の前のライン、ラインバッカーをブロックに行くのですが、その背後からボールを持つ柴田君がものすごいスピードで突っ込んでくる。私たちラインはむしろ彼に背後から押された結果として穴が開くといったカッコウでした。さらに、オープンフィールドへのスィープではプルアウトガードとして先行するも、すぐに柴田君に追い越され、縦横無尽に走り抜ける彼を、敵ばかりか味方も茫然と見送るシーンを今でもはっきりと思い出します。ボールを持った彼はまさ敵を薙ぎ倒す「阿修羅のごとく」の様相でした。

話しは今に戻って、昨年の初め、東京でも現役をサポートするOBOG会を作ろう、そのためにヘッドコーチを務める柴田君にお出まし願おうと計画しいたのですが、その矢先の、まさに突然の訃報でした。

彼とは事前にメールでやりとりしており、交通費はこちらで、といういと、孫の顔を見にいくついでがあるから、と自費での参加を申し出てくれました。そうした面倒見のよさと気配りができる人柄に、フットボール関係者はもちろん、それを遙かに突破して多くの人たちからリスペクトを集め、影響を与えてくれたのが柴田君でした。

その彼は豊高を卒業後、ご存知のとおり関西学院大学に進学して、そう、大学フットボールのスーパースターとなるわけです。

私はというと進学先に美術大学を選択、学生時代からスポーツを専門とするプロカメラマンとなり、サイドラインからその活躍を撮影する立場になりましたが、リアルな付き合いがないままとなっていました

ところが、まさに35年前に女性フットボールチーム・レディコングの誕生とともに再会を果たすことになります。

レディコングは、当時創刊した女性も読める夕刊紙レディコング発刊に合わせて、そのプロモーションとして発足をしたものです。

私がその夕刊紙発行元の会社に入社する条件に、女性のフットボールチームを作ってくれたら入ると約束したことがきっかけで第一生命にスポーンサーになっていただき発足する運びとなりました。

そのとき、だれに指導をしてもらうか、ということで、私が白羽の矢を立てたのが、当時、ブリジストンの社員として東京にいた柴田君と豊高の同期、岸田明義君でした。

当初は、そんなん無理や、といった反応でしたが、入部希望の若き女性たちと実際に会った途端、その運動能力とやる気、そしてチャーミングさに引き込まれて、コーチを引き受けてくれることとなった次第です。その過程でさらに早稲田で活躍していた後輩の中川〇〇君も参加、図らずも関学、京大、早大という東西のフットボール魂がこのレディコングに結集することとなりました。

これも柴田君の、垣根を設けず、来るもの拒まず、やってみよう精神があったからからこそ。ほぼ不可能な状況から現実化するという、これも彼の突破力が成し遂げた奇跡ともいえます。

その後、チームは解散したものの、実はコミュニティとしては存続しており、今に至るまで毎年、メンバーで集まる機会を設けており、折々ごとに柴田君、岸田君にも声がかかってフットボール談義に花が咲いたということです。

そして、今回の柴田君の殿堂入りのニュースです。高校時代と前述の再会で、人生で二度彼と同じグラウンドに立てたのはまさに僥倖、これに勝る喜びはありません。せめて彼が生きている間に、という気持ちはありますが、ここは当時の仲間とともに改めて彼の残した足跡に敬意を表し、手を合わせたいと思います。

実は前谷会長からこの原稿の依頼を受けたときに、豊高OBで殿堂入りしたお三方を実際に知っているのはは私だとの指摘があり、調べてみたところ、確かにそうなんです。

まず徳永義雄さん。私の現役時代に豊高のグラウンドで指導を受けた記憶があります。さらに東元春夫さん。東元さんは一学年上の先輩で、私がガード、東元さんがタックルという隣同士。さらにその後には1年生の柴田君がフルバックのポジションにいたのです。まさに二人の将来のホール・オブ・フェイマーに挟まれていたとは！

柴田君がいなくなったという現実はありますが、私たちの心には確かに彼がいます。それぞれの心の中にある柴田君のことを語り継ぎましょう。

彼の突破力に敬意を表し、私たちもこの世とあの世の境を突破する勢いで、永遠に柴田君と共に、豊高フットボール、そして日本のフットボール界の発展に向けて歩みを続けていきましょう。

創部80周年 記念事業について

1946年に創部された高校アメリカンフットボール（タッチフットボール）部は最も歴史のあるクラブで来年めでたく80周年を迎えます。この歴史を末永く繋いでいってもらうためにもまずは現役のサポートを１番に考えたときに現状の冬季の練習は照明設備がなく暗闇の中スクリメージを行っています。これを少しでも改善することでけがのリスクを低減し少ない練習時間を有効に使ってもらうためにグランドの照明を整備したいと考え、学校側とも協議して維持費の掛からないシステムを組めば承認してもらえる確認が取れました。本年度は校舎屋上の防水工事が計画されているため来年度ならOKとなりました。ちょうど80周年にあたり記念事業として学校に寄贈したいと思います。次回開催のOBOG会総会において正式な承認を得たいと思いますが事前にこの会報で告知して会員皆様のご同意をいただきたいと願っています。つきましては皆様の募金を募りこの事業が実行できることを切望いたします。

因みに計画のベースとなる費用見積書２種と参考写真を提示します。

この提案はLED投光器の専門メーカーに依頼して作成してもらいました。この方法であれば電気代が掛からず将来的にはバッテリーの交換が発生するのですが車両用の量産普及品で専門家でなくても安価に取り換えできることで企画しました。

皆様のご意見を頂戴し賛否また改良コストダウンを進めたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

御 見 積 書

有限会社シナプス 様

合計金額 ¥3,190,000

御 見 積 書

有限会社シナプス 様

合計金額 ¥1,749,000

ＯＢＯＧ会組織について

昨年より新体制を構築すべく推進しておりますが、未だに未完状態です。この組織を完成することが新会長の第一の仕事です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

事務局	会　長	24期	前谷尚男	
	副会長	30期	寺西信彦	
	会　計	20期	田村雅史	
	監査役	25期	黒田能弘	
現役サポート	監　督	53期	片桐健二	① スクリメージ、練習試合調整 ② クリニック企画開催 ③ その他
	顧　問	55期	川口峰広	顧問業務（定期戦含む）
広報、財務、企画運営グループ		20期	田村雅史	① ラインビジネス他管理運営 ② 保護者会との協調 ③ 会報作成、配布 ④ 会費徴収 ⑤ 予算決算 ⑥ 調査、情報収集
		73期	遠藤岳	
	学年委員	～20期	20期　田村雅史	1名
		21期～25期	25期　黒田能弘	1名
		26期～30期	30期　寺西信彦	1名
		31期～35期	33期　伊藤元晴	1名
		36期～40期		1名
		41期～45期		1名
		46期～50期		1名
		51期～55期		2名
		56期～60期		2名
		61期～65期		2名
		66期～70期		2名
		71期～75期		2名
		76期～		2名

連絡先 toyokouafroadrunners@gmail.com　担当：24期前谷

前頁の空欄を一刻も早く埋めてしまいたいのです。各学年ごとにLINEグループを作ってください。

そしてとりまとめ役として学年委員としての登録をお願いします。

すべての学年委員による学年委員LINEグループをつくり連絡網を構築します。

これにより会の連絡・広報が余分な費用を掛けずスピーディに行うことが出来ます。試合速報や練習日程等が短時間で行き渡ります。現役との距離も縮まります。

連絡網イメージ図

広報担当

広報担当は会員全体よりの情報を収集し、随時発信する。また、現役マネージャーや保護者会とも連携し、情報を共有する。

LINE グループ①

各学年委員 17名

各学年委員は随時交代可能とし極力多くの会員が活動に参加する環境を整える。最初は幹事会が人選依頼を行うが以後は各学年相互で任命受諾を行い欠員を起こさないこと。

LINE グループ②

各学年 同期メンバー

学年の縦横の会員が同じ情報レベルを共有し身近なOBOG会を実現する。

会費・寄付の振込先：ゆうちょ銀行 00970-9-313867

豊中高校アメリカンフットボール部OB会

※将来的にはスマホから直接振り込み手続きが出来るようにすることを目指していますが今しばらくはお手間を掛けますがよろしくお願いいたします。

会報デザイン 川口(55期)